

情報リテラシー科目との連携による学生の学習習慣づけ - iPad 活用教育の課題 -

矢島彰*1・石川高行*1
Email: yajima@oiu.ac.jp

*1: 大阪国際大学グローバルビジネス学部グローバルビジネス学科

◎Key Words iPad, 情報リテラシー, 科目間連携

1. はじめに

ICT 活用教育は、古くからの視聴覚教育の延長線上にある教育効果の高い教材の開発、インターネットやデバイスをを用いた学習機会提供と教育の双方向性の実現などに分類出来る。ノート PC を学生に必携させて行う教育は、PC という強力なデバイスを学生に持たせることによって、ICT 活用教育の全てを享受できる環境を作り出すことであった。

しかしながら、持ち運びの不便さや、バッテリーの持ち時間、起動までの時間、OS の理解の必要性などの問題点があった。そのような中で登場したのが、タブレット PC やスマートフォンなどのスマートデバイスである。前述の問題点のほとんどが、スマートデバイスでは存在しない。特にスマートフォンは学生の生活に溶け込んだデバイスであるため、これを学習に使わせることができれば、学生の ICT 活用教育を推進できるばかりでなく、学生に学習習慣づけをすることも可能であると考えられることは自然な流れである。

多くの学生はスマートデバイスを学習には用いていないため、学習活動としての利用法は教えなければならない。しかし学生にとってはその教育に必要性を感じない場合もあり⁽¹⁾、スマートデバイスの何を教えるべきものなのかは結論がでない。

本研究では、コンピュータリテラシー科目において、iPad の学習活動での活用について扱い、必修のゼミ科目等で iPad を用いた学習を課すことで、学生の学習機会の増加、学習習慣づけに結びつける取組の成果や問題点について報告する。

2. 学生への iPad 配布

2.1 目的

大阪国際大学グローバルビジネス学部が、新入学生に iPad mini 配布する取組を開始して 2 年目となった。スマートデバイス、PC といった異なる機器を、大学で、家庭で、連携させて使いこなすことを目標とした iPad mini 必携化であった。しかし、1 年目の学生のスマートデバイス利用方法は、教員が期待するようなものではなかった。オンラインの授業資料の少なさなど、授業のやり方の問題もあった。2 年目は、1 年目の問題点を解決することはもちろんであるが、学生の学習習慣づけに結びつけることも目的とした。

2.2 コンピュータリテラシー授業の内容

コンピュータリテラシー科目である「コンピュータ基礎演習」科目は、1 年次前期に週 2 コマで開講している。多くの大学で、レポート作成や発表に必要なスキルを必修の情報リテラシー科目で育成しているが、Word, Excel, PowerPoint, 情報モラルを中心とした週 1 コマの開講が通常であろう。週 2 コマ開講とした理由は、iPad 活用法も扱い、多くの科目で ICT 活用教育を実施できる環境を早く実現するためである⁽²⁾。

表 1 は、全 30 回のコンピュータ基礎演習授業で、MS-Office 以外を扱う回を抜粋したものである。LMS の利用、教材のダウンロードによる iPad オフライン状態での閲覧、オンラインストレージによるファイル管理、資料のデジタル化等を扱う。

表 1 コンピュータ基礎演習 MS-Office 以外の回

回	内容
1	OIU メール・moodle
2	moodle・iBook・Adobe Reader
8	OneDrive
10	Evernote, CamScanner
12	Google ドライブ・各種ニュース教養関連アプリ
16	各種学習アプリ

2.3 リメディアル教育

コンピュータ基礎演習授業と最も連動している科目は必修の 1 年次ゼミ科目である。こちらでも週 2 コマで開講しており、iPad の Web ブラウザを用いてオンライン基礎学力育成コンテンツにも取り組む。

2.4 専門科目での利用

誕生して 2 年目の学部であるため、現時点で専門科目での iPad 活用は少ないが、用語集などのオンラインコンテンツが用意されている。学生は iPad にダウンロードしていつでも見ることが出来る状況にある。

3. 学生の iPad 利用と学習機会

3.1 学習機会に対する意識

2015 年度新入学生 83 名を対象として 6 月上旬にアンケートを実施した。コンピュータリテラシー授業において、Word, Excel の基本的な扱いが終わり、iPad を用いての各種情報サービスやアプリの利用についてもひと通り扱った段階である。表 2 は、「iPad を配布された

ことで、学習する機会・場面が増えたと思いますか」に対する回答結果である。あくまで学生本人の主観であるが、iPad を手にしたことが学習機会の増加につながっていると認識している学生が 75%いる。入学時から iPad についての設定指導や授業での活用方法などを扱ったことが、ある程度成功しているといえる。

表 2 iPad 配布で学習機会が増えたか

1 強く思う	34%
2 どちらかといえばそう思う	41%
3 どちらともいえない	13%
4 どちらかといえばそう思わない	6%
5 全く思わない	6%

3.2 学生の iPad 活用

表 3 は「コンピュータ基礎演習以外の授業で iPad やスマートフォンをどのように使いますか（複数回答可）」という設問への回答である。選択した学生の多かった項目から順に並べている。最も多かった項目は、「A. 分からない用語などを自分で調べる」であった。特に指導しなくても、学生は調べ物にスマートデバイスを活用する。BitCampusTouch は Web ブラウザで取り組む基礎学力育成オンラインコンテンツであり、学生にはノルマが課されているため、多くの学生が取り組むのは当然である。項目 M については、学習者ではなく教育する側の問題である。iPad を用いたアクティブラーニングの仕掛け作りができていないことを意味している。項目 F, K は教員からの指示ではなく、学生が能動的に取り組む学習活動であるが、実施している学生は少ない。

表 3 iPad で何をするか（複数回答可）

A. 分からない用語などを自分で調べる	67%
B. BitCampusTouch に取り組む	66%
C. moodle にアクセスする	47%
D. 教員から見るように指示された Web サイトへアクセスする	46%
E. 授業資料をダウンロードして見る	41%
F. 授業内容に関連するサイトを自分で探してアクセスする	30%
G. ホワイトボード（黒板）の板書撮影	25%
H. Google ドライブ・OneDrive 等にアクセスする	24%
I. 配布プリントの撮影保存	20%
J. Word・Excel・PowerPoint を使う	18%
K. Evernote やメモなどに授業内容を記録	13%
L. 授業の動画撮影や録音	7%
M. 他の学生との意見交換・クイズやアンケートへの参加	5%
N. その他	19%

3.3 学生の iPad 活用と学習機会増加意識

前述の学習機会増加意識が、iPad の活用の仕方と関係があるかを調べた。表 4 は学生の iPad 活用度合いを学習機会増加意識別にまとめたものである。

表 4 学習機会増加意識と iPad 利用

	1	2	3	4	5
A.	71%	79%	55%	20%	40%
B.	57%	74%	55%	80%	80%
C.	57%	47%	45%	40%	0%
D.	54%	53%	36%	20%	0%
E.	43%	47%	27%	40%	20%
F.	32%	35%	27%	0%	20%
G.	36%	18%	36%	20%	0%
H.	36%	24%	18%	0%	0%
I.	36%	15%	9%	20%	0%
J.	29%	21%	0%	0%	0%
K.	25%	9%	9%	0%	0%
L.	14%	6%	0%	0%	0%
M.	4%	6%	9%	0%	0%

教員からの指示による iPad 活用については、学習機会増加意識との関係はほとんどない。学習機会増加意識と関連が高いと考えられる項目は、A, D, E, F, H, I, J, K, L であり、これらは能動的な iPad 活用といえる項目 A, F, K と、情報管理に対する意識の高さやスキルを反映した項目 H, I, J, L に分けて考えることができるだろう。いずれにせよ、様々な場面で活用している学生ほど、iPad が学習機会の増加に役立っていると感じていることは間違いない。表 5 は、学習機会増加意識別の iPad 活用項目の平均選択数である。

表 5 学習機会増加意識 iPad 活用項目選択数

学習機会増加意識	1	2	3	4	5
選択項目数平均	4.9	4.3	3.3	2.4	1.6

iPad を様々な場面で活用することができている学生ほど、iPad 配布の意義を実感できているという結果は当然ではある。その当然の結果から、iPad の授業での活用についてコンピュータリテラシー授業で扱うことに意味があったことが分かる。

4. おわりに

多くの科目で iPad を活用していくことで、学生が主体的に iPad を用いて学習する態度が育成できると予想される。多くの科目での活用という点で問題となるのは、教員自身がスマートデバイスを使った学習を経験していないことである。スマートデバイスの操作そのものについては、ほとんどの学生は問題ない。ノート PC を必携させて行う教育との違いは、学生の OS への教育が不要な点と、持ち運びやすさである。学生側に問題点が少ないがゆえに、教員のスマートデバイスに対する不慣れが目立つ状況になっている。FD として取り組むべき問題であろう。

参考文献

- (1) 榎井猛, 梶木克則, 那須靖弘, 吉川博史: "モバイル端末を用いた演習について", 第 38 回教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp.423-424 (2013) .
- (2) 矢島彰, 田窪美葉, 石川高行, 谷口り子, 安高真一郎, 安達康生: "スマートデバイス時代の情報リテラシー授業", 2014 PC カンファレンス論文集, pp.118-119 (2014) .